

2-4 耐震性能の評価

想定した地震波および告示に示される方法により作成した模擬地震波による地震応答解析を行った結果、X方向1階および2階において、最大応答せん断力が本建物の保有水平耐力を超えることが確認された。また、その他の階およびY方向に関しては保有する耐震性能が比較的高い。

耐震安全性の低さの要因として以下のことが挙げられる。

- ① 全体的に柱、梁鉄骨のウェブが、せいに比べて薄く、局部座屈を起こしやすい形状になっている上、断面寸法も小さく現行基準で要求されている耐力と比較すると、部材耐力が低い。
- ② X方向（長手方向）に配置されているブレースに用いられている鉄骨の断面寸法が、材の長さに対して小さく、座屈を起こしやすい形状になっているため、ブレース耐力が低い。
- ③ X方向ブレースのせん断力負担割合は、全層で0.7を超えており、強度で地震に抵抗する形式の建物になっているため、要求される耐力が高くなる。
- ④ Y方向（短手方向）の偏心率が、全層で0.15を超えており、ねじれの生じやすい建物形状になっているため、要求される耐力が高くなる。

